

(ST2023 カリキュラム用)

2026 年度春 semester 学部演習科目募集要項

1. 学部演習科目 (ゼミ) とは

(1) ゼミとは、専門的知識の習得と卒業成果物の作成を目的に、5 セメスターと6 セメスターの専門演習、7 セメスターの卒業研究、8 セメスターの卒業プロジェクトの一連の科目のことを指します。2 年間にわたり基本的には同じ指導教員の下で実施される少人数制の演習科目です。詳細については、以下の情報を確認してください。

- ・ 科目一覧 (単位数、学修分野、履修登録上の注意事項など)
- ・ シラバス (到達目標や授業方法、成績評価方法など)
- ・ 募集ゼミ一覧 (申請可能な指導教員、開講言語など)
- ・ ゼミ要覧 (個々のゼミの詳細)

(2) 3 回生ゼミ「専門演習」は履修指定科目となっているため、全学生が受講する必要があります。

(3) 学生からの申請と教員による選考に基づいて基本的に大学が履修登録を行います。

2. 科目情報

(1) 基本的な考え方

2023 カリキュラムでは ST 所属学生**全員**が必ず3 回生次に3 回生ゼミ「専門演習」を履修する必要があります。4 回生次の卒業研究、卒業プロジェクトの履修は任意ですが、卒業プロジェクトを履修するためには卒業研究で P 評価を取得しておく必要があります。また、卒業プロジェクトを履修しない場合は、キャップストーンを履修し単位を修得することが卒業要件となります。また、ST 学生は ST 教員のゼミのみ履修可能です。

図の通り、4 セメスター次に履修申請を行い、選考を経て所属ゼミが決まります。5 セメスター以降に2 年間に渡り基本的には同じ指導教員の下で学修します。なお、履修登録は履修登録期間 A の前に大学にて実施します。

第 4 セメスター	第 5 セメスター	第 6 セメスター	第 7 セメスター	第 8 セメスター
履修申請	専門演習 【履修指定科目※1】	専門演習 【履修指定科目※1】	卒業研究 【「卒業プロジェクト」 前提科目】	卒業プロジェクト 【選択必修科目※2】
大学にて履修登録 				

※1 履修指定科目：全学生が履修するよう学部則にて定められている科目です。必ず履修する必要がありますが、有効評価 (C 以上) を取得することは卒業要件ではありません。なお、「専門演習」は 5 セメスター次と 6 セメスター次の計 2 回履修します。

※2 選択必修科目：「卒業プロジェクト」もしくは「キャップストーン」のいずれかの単位を修得することが卒業要件となっています。「キャップストーン」の単位を修得する場合は、「卒業研究」および「卒業プロジェクト」の単位を修得する必要はありません。希望する場合は「キャップストーン」と「卒業研究」/「卒業プロジェクト」の両方を履修することも可能です。

(2) 時間割

教員によりゼミの時間割は異なります。ゼミ要覧にゼミの曜日時限を記載していますが、これは今後変更の可能性が

あります。最終的なゼミの曜日時限は公開される時間割表にて確認してください。なお、原則的に3回生ゼミ「専門演習」では5セメスターの学生と6セメスターの学生が合同で、4回生ゼミでは「卒業研究」と「卒業プロジェクト」の両受講生が合同で授業を受講します。

(3) ゼミの変更及び履修削除

3回生ゼミ「専門演習」について、履修削除や所属ゼミ決定後のゼミの変更は出来ません。7セメスター次の「卒業研究」は原則として3回生ゼミと同じゼミに全員大学が登録します。ただし、5セメスター及び6セメスター次に他のゼミに変更を希望する学生は、変更の申請が可能です。ただし、希望のゼミの定員などの関係で希望通りになることは保証できません。

申請を行った結果、変更が認められなかった場合については申請時の所属クラスへ履修登録が行われます。

「キャップストーン」の単位を修得する予定の学生で、卒業研究の履修を希望しない場合は、先着登録A期間、先着登録B期間、受講辞退期間1に自分で「卒業研究」科目を削除してください。なお、履修削除を行った場合については、再度履修登録を行うことが出来ません。操作方法の誤り等により履修削除をした場合でも救済措置は設けられていませんので、操作の際は十分注意してください。なお、希望する場合は「キャップストーン」と「卒業研究」/「卒業プロジェクト」の両方を履修することも可能です。

※「キャップストーン」については、7セメスター次、または8セメスター次に自身で科目登録してください。

(4) 定員

ゼミは出来る限り少人数の編成にするため、各ゼミの履修者数を平準化するために定員が設けられます。各ゼミの定員はおおよそ20名弱になる見込みですが、正確な定員は申請及び選考の過程で決まります。また、春セメスターと秋セメスターそれぞれの申請者見込数に応じて、春と秋それぞれに定員を設定します。

3. 申請について

(1) 申請要件

全体としての申請要件はありません。なお、日本語基準学生が英語開講のゼミに申請する場合は、申請時に英語中級A・B両方の単位修得をしていることが必要です。

(2) 申請方法

以下について留意のうえ、後述する申請期間内にオンライン申請フォームより申請してください。

- ・必ず事前に本募集要項、ゼミ要覧等を精読してください。
- ・期限後の申請は理由の如何を問わず受け付けません。
- ・ゼミの定員を超過した場合は選考が実施されるため、必ずしも希望ゼミに所属できる訳ではありません。申請時には必ず第5希望までのゼミを選択し、あわせて希望するコンセントレーションを3つ選択してください。
- ・ゼミで研究したい内容について具体的に記載（文献講読で学修済/学修中の内容、もしくはご自身の活動経験に基づく内容でも可能です。）

(3) 選考

希望者数が定員を超過した場合には、指導教員による選考が実施されます。選考では申請フォームで提出された内容を中心に、成績を含めた総合的な観点から実施されます。また、教員が必要と判断した場合、面接を行う場合が

あります。選考結果に関するご質問には一切お答えできません。なお、選考に当たっては希望順位の高い学生を優先的に受講者として配置します。

選考の結果、いずれのゼミにも所属できなかった場合、もしくは申請を行わない場合は大学が所属ゼミを決めます。

(4) スケジュール

内容	日程
① 募集情報（要項、ゼミ要覧等）確定版の Web 掲載	2025 年 9 月 30 日(火)
② 面談期間	2025 年 10 月 1 日(水)～10 月 31 日(金)
③ 申請期間 ※全員	2025 年 11 月 10 日(月)～ 11 月 28 日(金) 16:30
④ 所属ゼミ発表	2026 年 1 月下旬

※上記スケジュールは変更となる可能性があります。

(5) その他の申請に関する留意事項

① 交換留学（派遣）への参加学生

留学中であるかどうかに関わらず、履修申請は 4 セメスター次に必ず実施してください。5 セメスターまたは/および 6 セメスター次に交換留学に参加中の学生は、教授会の審議を経て、3 回生ゼミ「専門演習」の履修が免除となることがあります。交換留学から復帰するセメスターには、留学前/留学中の申請・選考により決まった所属ゼミへ大学が履修登録を行います。なお、7 セメスター次に交換留学に参加中の学生は 4 回生ゼミ「卒業研究」を遠隔指導にて履修します。

② 在籍状態が「通常」のまま派遣が行われるプログラムへの参加学生

在籍状態が通常のまま派遣が行われるサービラーニング、日本語パートナーズ、ジャパンエンターテイメントインターンシッププログラムに参加する学生については、派遣期間中オンラインにて受講を行います。

③ 休学予定の学生

履修申請は 4 セメスター次の申請期間に必ず実施してください。4 セメスター終了直後に休学を予定している学生も 4 セメスター次（休学前）に必ずゼミの履修申請を実施してください。休学中、あるいは休学後のゼミの履修申請は認められません。

④ 3 回生編入学・転入学の学生、5 セメスター次に ST へ転籍する学生、3 回生以上で再入学する学生、交換留学生（協定大学→APU）

通常とは異なる時期に申請期間を設けます。具体的な申請期間は Academic Information Web サイトに掲載します。

⑤ 早期卒業プログラムへの登録学生

i) 早期卒業の学生は 3 回生ゼミ「専門演習」の履修は免除されますが、希望する場合は履修することが可能です。3 回生ゼミの履修を希望する学生は、以下の期日までにアカデミック・オフィス (seminar1@apu.ac.jp) へ申し出てください。

春セメスターの「専門演習」の履修：履修の前年度 2 月末まで

秋セメスターの「専門演習」の履修：履修の当年度 8 月末まで

ii) 卒業希望時期に基づき下表のとおり履修登録を行います。

(a) 6 セメスター卒業希望の場合

4 セメスター	5 セメスター	6 セメスター
(履修申請)	卒業研究 (専門演習も履修可)	卒業プロジェクト (専門演習も履修可)

(b) 7 セメスター卒業希望の場合

4 セメスター	5 セメスター	6 セメスター	7 セメスター
(履修申請)	(専門演習を履修可)	卒業研究 (専門演習も履修可)	卒業プロジェクト

4. 卒業成果物

卒業成果物に関する説明を参考として記載しますが、実際に作成する際には指導教員の指示に従って作成、提出するようにしてください。

(1) 卒業プロジェクトとは

8 セメスターの学生が対象となる本科目では、学生各自がこれまで蓄積した問題関心や知識・技法や社会活動経験を活用し、学生が自身で設定したテーマに基づき、学生個人作成の成果物として卒業論文もしくはアクティビティ・レポート形式で成果物としてまとめあげます。教員はそのための学生の研究・執筆を指導します。

<卒論、アクティビティ・レポートの文字数>

日本語 15,000 字、英語 6,500 Words 以上（最低目安）

論文、レポートは文字数や内容、構成が異なります。[「APU ライティング・マニュアル」](#)を参考にすると同時に、教員の指導内容をよく理解して執筆に臨んでください。

(2) 提出方法

卒業成果物は Moodle へのオンライン提出となります。具体的な提出方法と期限は Academic Information Web サイトの「演習科目（ゼミ）」ページに掲載します。

5. その他留意事項

(1) 指導教員が学外研究制度（ADL）に参加する場合

APU には学外研究制度（ADL）という教員向けの制度が存在します。本制度が適用される教員は 1 セメスターの間、授業を担当することなく海外を含む学外での研究活動に専念することになります。所属するゼミの指導教員に ADL が適用される場合、ゼミの取り扱いは以下の通りとなります。

・3 回生ゼミ (専門演習)

ADL のセメスターではゼミは実施されません。次セメスターに ADL を取得する教員のゼミには応募できますが、次セメスターにほかのゼミへの変更申請手続きが生じます。

・4 回生ゼミ (卒業研究/卒業プロジェクト)

以下いずれかの方法でゼミが開講されます。どちらの方法になるかは指導教員と大学が協議して決めます。

- ① 指導教員が研究先から遠隔 (オンライン) にて指導を行う。
- ② 指導教員の代わりに別の教員による指導を受ける。

(2) 学部必修科目との時間割重複

学部必修科目とゼミの時間割が重複した場合であっても、大学による履修上の配慮はありません。学部必修科目はできるだけ早期に単位修得することを推奨します。

(3) GIS 学術士へ申請予定の学生へ

GIS 学術士には申請条件の 1 つに「GIS を活用した卒業論文を執筆し、単位修得する。」ことが定められています。GIS 学術士に申請予定の学生は、申請予定のゼミ指導教員が GIS を活用した卒業論文指導が可能か予め確認することを推奨します。

Academic Information Web サイト (GIS 学術士) :

<https://www.apu.ac.jp/academic/program/Certifications/>

6. 問い合わせ先

問い合わせの前には必ず本募集要項を精読してください。問い合わせは基本的にメールでお願いいたします。また、回答までに数日要する場合がありますので、予めご了承ください。

アカデミック・オフィス 学部演習担当

Email: seminar1@apu.ac.jp